

蓮アイス 青谷高生が開発

遺跡PRに一役

鳥取市青谷町の青谷高（小川泉校長）の生徒たちが、地元の人たちとハスの実を使った「蓮アイス」を共同開発した。青谷上寺地遺跡史跡公園の2年後の一部オープンに向けて、新たな特産品開発を目指した取り組みで、早くも評判を呼んでいる。

ハスの実“発掘”も楽しんで



「蓮アイス」をアピールする生徒たち

3年生は一昨年から課題探究（総合的な探究の時間）の中で、青谷上寺地遺跡のイメージアップにつなげる「町づくり、観光、青谷のいいところPR」をテーマに取り組んでいる。その一環で、休耕田で古代ハスと呼ばれる「大賀ハス」を栽培しようと提案し、「蓮アイス」も考案した。

ハスの実の栄養効果に着目した生徒9人が、アイスの中に細かく砕いたハスの実をトッピングし、実を発掘する楽しさも同時に味わえるように工夫した。地元にあるかちべ伝承館と青谷ようこそ館の協力を得て、数回の試作や試食アンケートを繰り返して、商品化にこぎつけた。

「蓮アイス」を初めて口にした町内在住の山根信子さんは「濃厚なアイスのおいしさとハスの実の食感が絶妙で、素晴らしい出来栄え。ぜひ多くの人に味わってもらいたい」と笑顔で話した。

1個250円。青谷ようこそ館で販売されている。

（青谷通信部・高橋克己部長）